

## 勿凝学問 322

小さな政府で成長するって、どういうふうにするんだ？

ゆたかな社会における 3つの経済運営

2010 年 7 月 5 日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

今時、正々堂々と、小さな政府で成長をと言っている政党や政治家がいるようだけど、それって、どういうふうにするんだ？

ここ 20 年ほどの、高度に成熟したゆたかな社会——つまり各種の私的消費がある程度飽和水準に到達し、貨幣という「流動性プレミアムが常に持越費用を凌駕する<sup>1)</sup>」資産が、ブラックホールのように人びとの所得を吸い込んでいき、恒常的に消費が不足し、ために消費の派生需要としての投資が不足することになり、消費と投資からなる需要が完全雇用を保証する水準に足りない状況となっている社会——をながめてみると、経済運営には 3 つあるようにみえる。

ひとつは、アメリカのように、小さな政府でバブルを連発し、あまり品の良くない消費や住宅投資を煽って需要不足を補っていく方法。いまひとつは、大陸ヨーロッパのように、大きな政府で消費水準を政策的に引き上げて需要不足を補う方法。そして、3つめが、日本のように、バブルを連発する立場にもなく小さな政府のまま、需要不足に苦しみ続けられる国。日本のような経済運営をとる国は、需要不足は、外需（純輸出）という神頼みで埋めていくくらいしか術はなく、運良く外需が伸びれば成長もできるが、運悪く外需がなければ、内需というバッファーが薄いためにダメージは他国よりも大きくなってしまふ。

資本主義が高度に成熟したゆたかな社会では、バブル頼みの経済運営をとらないのであれば、国民経済に再分配政策を適切に組み込まざるを得なくなる。小さな政府で成長する——なんか、もっともらしく聞こえるけど、この日本で、そんな夢のような(?)ことをどうやって実現できるんだろうかね。

それに彼らの言う成長戦略ってのは、僕には、新世紀の利権政治にみえて仕方がないんだけどね。社会的に価値をおくサービスの潜在需要を顕在化する——僕はここまでをワイズペンディングと考えている——ことにより需要を創って、各種供給側でのイノベーションは民間の力に期待をする。政府は、それ以上のことはあんまりやらない方がいいと思うよ。新しい財を生みだすイノベーションを起こし得る産業を特定するセンスなんて、ほとんどの人が持ち合わせていなくて、そして当然、政治家や官僚がそんなセンスを備えているなんて考えられないんだから。次でもどうぞ。

---

<sup>1)</sup> J. M. ケインズ（間宮陽介訳）『雇用、利子および貨幣の一般理論 上』337 頁。

勿凝学問 61 [イノベーションを促す政策とは——今日の論調とオリジナルなシュンペーター理論](#)